

# れきみんだより

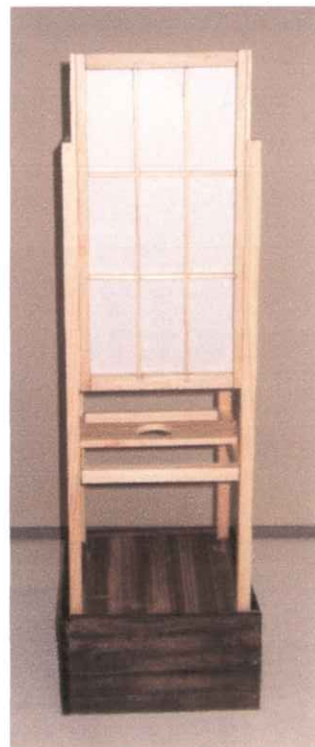
平成 22 年 10 月号  
仙台市歴史民俗資料館  
館長 土岐山 武  
教師用 NO. 6



## 「行灯」の複製品を作成しました

「行灯（あんどん）」とは江戸時代に普及するようになった照明器具です。木などでつくられた枠の中央に台があり、そこに火皿を置きます。火皿の中に灯心を入れ、油を注ぎ、灯心に火をつけて使用します。枠の周りには風などで火が消えないように和紙が貼られています。

体験学習室に2/3の大きさの複製品を展示いたしました。実際に手で触ってみて構造などをご覧になってみてください。



【行灯（複製品）】

## 馬の鼻取りは 子供の仕事だった！

農村のくらしのコーナーに一枚の写真と「馬鍬（まんが）」や「舟馬鍬（ふなまんが）」などが展示してあります。

田植えの時期が近づくと、農家では田んぼに水をはり、櫛（くし）のような鉄の棒がいくつもついた「馬鍬」を馬にひかせて土を平らにしていきます。



馬鍬をひいている馬

馬鍬（まんが）

馬の手綱を持って歩く子供

【農村のくらしのコーナーに展示してある写真】

でも、馬はまっすぐ歩いてくれませんが、そこで、馬の手綱を持ってまっすぐ歩かせる役目が必要でした。ほとんどの場合、それは子供の仕事でした。写真を見てください。子どもの片足が高く上がっていますね。なにしろ、馬の脚の方が長いので、馬の歩き方に合わせるには、普通よりも早く歩かなければならなかったのです。農作業は大人だけでなく、子供たちにとっても自分の役目が与えられた大切な仕事だったのです。